

# 大学院特別講義

(医歯学先端研究特論)(生命理工学先端研究特論)  
(医歯理工学先端研究特論)

下記により大学院特別講義を行いますので、多数ご来聴下さい。

## 記

1. 講師 川添記念病院 精神科 医長  
本村 春彦 先生

2. 演題 動作法という心理療法の紹介

3. 日時 平成29年11月17日(金)18時00分～20時00分

## 4. 要旨

九州大学名誉教授の成瀬悟策先生が創始者である動作法は、我が国独自の心理療法であり、各分野で適用されていますが、残念ながら全国的にはあまり知られてない様です。精神科臨床において動作法が有用だった私自身の体験をもとに、「動作」を使って心理療法を行うというユニークな「動作法」を紹介し、「動作」が持つ可能性に触れていただければと思います。

連絡先： 豊福 明 (歯科心身医学分野 内線 5909)

「動作法」は言葉ではなく動作を手段とする心理療法です。言語での説明・伝達が難しく、何か怪しげなものと思われがちですが、創始者の成瀬悟策教授は知る人ぞ知る臨床心理学の大家であり、何冊もの成書も発刊されています。洞察や思弁より体験重視で「動作の課題」を通じて動作が変わると身体が変わり、知らず知らず心のあり方が変わる、という、通常言葉を介した心理療法とは随分異なったスタイルで行われます。「動作療法の展開」(2014、誠信書房)「からだところ」(2009、誠信書房)などに詳述されていますが、やはり初学者には難解です。今



回は、限られた時間内で本村先生から成瀬教授直伝のエッセンスを、「まだ成瀬先生すら完全に理論化されているわけではないが」とお断りの上で実技を交えてご教授頂きました。

個人的には20数年前に偶然参加したワークショップ(ブリーフサイコセラピー研究Ⅲ 135-146、1994、亀田ブックサービス)より随分分かりやすかった印象です。それは数年前に本村先生

の“実験台”として五十肩を動作法で快癒に導いて頂いた体験が基盤になっているかもしれません。単に筋肉痛を和らげるマッサージではなく、痛いからと無意識にブレーキをかけていた身体の動きを「ここまで動かしても大丈夫なんだ」という驚きの体験をすることで、自らの身体の使い方が、ひいては心のあり方が変化していくということかな、と浅薄ですが漠と理解しました。

「動作を通すとその人のところが透けて見える」「体験は知らないうちに心に留まる」という印象的な言葉で講義が締めくくられました。簡単そうですが、膨大な臨床経験に基づいたかなり深遠な理論的背景を有する技法であるため、すぐに歯科臨床に応用、というほど安易な技法ではありませんが、今後さらに研究を重ね、言葉やクスリ以外の治療法の選択肢としての可能性を検討していきたい所です。(文責：豊福)

